

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0172900805), 法人名 (北海道医療株式会社), 事業所名 (グループホームハッピーヴィラしんまち), 所在地 (北海道旭川市6条西1丁目1番2号), 自己評価作成日 (令和5年10月11日), 評価結果市町村受理日, 令和6年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

皆様の今迄の生活経験から培われた残存能力が生かされる様、1人1人に合わせた活動に配慮し、一緒に行き、共に毎日、笑って、楽しんで生活が送れるよう、取り組んでおります。他、普通っていた馴染みのお店の再現を行い、思い出に浸り、若かりし頃の活気を感じていただける様、又、「何歳になっても自分らしく」をモットーに、自己の気持ちを大事に、各皆様の思いを把握し、叶えられる様、伺いながら取り組んでおります。又、常に笑って心から楽しんで、心身共朗らかに、毎日を過ごしていただける様、会話の中にも笑いを取り入れ、入居者様、職員共々楽しんで生活をしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0172900805-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年10月30日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 事業所の基本事項: 旭川市街中心部に程近く、近隣には病院やコンビニ、スーパーがある生活・交通に至便な環境となっている。
2) 職員の介護への基本姿勢・態度: 職員は管理者を中心に事業理念を介護の基本として研修を重ね、利用者の安心・安全・家族の信頼関係維持に努めて、真摯に介護に専念している。
3) 家族の介護支援への好感等: 家族は代表、職員が利用者・家族の声を受け止め、理解して柔軟な介護の対応姿勢に高い好感を寄せている。
4) 運営推進会議開催状況: 家族、地域関係者、地域包括等の参加・協力を得て、定例開催。資料を基に運営状況を説明して、参会者の意向を運営に反映するように努めている。
5) 自治組織・機関等の連携: 現状でまだ自粛傾向にあるが、通例では施設・地域行事や災害時の地域との相互の協力と参加があり、連携と役割を担っている。5類への緩和を機に、改めて地域との関係再構築に向け、取り組んでいる。成果に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 グループホームハッピーヴィラしんまち	「個人の尊重を」を念頭に、各個人に相応しい尊重とは何か？を随時、自答しながら、支援に繋がられる理念になっている。	基本理念を事業所内に提示し、利用者やその家族、職員等関係者に示している。また新人研修でも理念に触れ、実践で忘れないよう、現場で活かせるよう、具体例を挙げながら説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は生活に役立つ講習会やイベントを開催し、地域に呼びかけていたが、現在は散歩時の挨拶を交えた交流となっている。	地域との関係性は日頃の活動等で強く維持されている。通例では行事に参加し、また除雪や道路清掃等で地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、「認知症の方への対応の仕方」や、キャラバンメイト講習会で、認知症あるある劇場を行い、認知症について、知っていただく事と、一緒に支えて行ける取り組みを実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所でおこなっている「身体拘束会議」の内容や、非難訓練の内容を見て頂き、ご意見を頂き、対応策がマンネリ化せず、進展して行けるよう、取り入れている。	運営推進会議はコロナ禍により多様な方法で開催しているが、基本事項は2ヶ月毎の定期開催、地域代表や行政等との意見交換、ヒヤリハットや事故も報告し、サービスの向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類や、事故報告書提出時等、日頃のケアの在り方や、対応について、伺い、教えて頂きながら協力関係が図れるよう取り組んでいる。	介護保険の担当者や生活保護課などの行政とは信頼ある関係を築いており、電話やメール等で情報を交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準対象となる行為を念頭におきながら、この対応は、自分達の一方的な対応になっていないか？入居者様にとって、どのように反映されるのか？矛盾していないか？等を考慮し、身体拘束にならない様、随時考慮しながらのケアを実践している。	身体拘束防止対策委員会を定例で開催している。内容的には不適切ケアの事例検討や拘束の予防方法等々、検討を行いながら拘束虐待等々はあってはならないケアとして認識確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束と虐待防止対策会議と勉強会を行い、どのような対応が拘束や虐待になりえるのか？を考慮した防止対策に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は、社会福祉協議会の方に来ていただき、成年後見制度についての講習会を開催し、学んでいた。現在は事例内容から、成年後見制度と日常生活支援事業のあり方について、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に次ぎなる生活の拠点先について説明を行い、後々、一緒に相談をしながら進めて行く事を話、納得される迄、説明をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様からのご意見について、話し合い、反省したり、参考にさせていただきながら、日頃のケアに活用している。	現在も制限はあるが、家族の訪問時には何でも話してもらえるよう、雰囲気作りにも考慮し、意見や苦情を聞き取っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、日頃の業務や運営について話し合い、各自の意見等を取り入れながら質の良い運営がなされる様、取り組んでいる。	日々の業務中や月例の会議時に意見交換が行われている。必要に応じて、職員面談の場を設定し、意見や提案を受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課や、キャリアパスからの育成水準があり、各自更なるキャリアアップが目指せるよう整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部で随時、勉強会や研修会が開催されており、各自が知識や、技術を身に付けられるような取り組みがなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列での勉強会や、外部の研修会への参加等から、情報交換や知識、技術の伝授がなされ、各自の能力が発揮され、質の良いサービス支援につなげられる様、配慮されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉で表せなくても、普段からの仕草等で気にかけて、さりげない会話から、考えている事や不安に思っている事等、伺い、安心していただけるような取り組みをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に要望やご本人様の生活状況、ご本人様とご家族様との事を伺い、適するサービス利用になる様、又、サービス利用開始から途中迄も、随時伺いながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記に同じ		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の様子を伺いながら、一緒に日常生活動作を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、ご本人様、ご家族様に互いの思いを伺い、ご意見、思いを兼ね合わせた支援提供に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、行かれていた美容院や、同期会等への送迎を行い、馴染の関係と、思い出を何時までも保持出来る様、配慮している。	外出困難であるが、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に支援し、生活歴の把握に努め、電話や手紙の取り次ぎ等で、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士、近くの席に着席していただき、話ながら互いの出来ない所のお手伝いとなされる様、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、ご家族様へ、お手紙や、ご本人様の現状を伺いながら親睦を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅に居た時の生活習慣や、ご要望をご本人、ご家族様にも伺いながら、意向に添えられる様、又、仕草や何気ない会話から、意向に添えられるよう配慮しながら取り組んでいる。	毎日の生活を支え、嫌な事や好きな事等を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。困難な場合でも仕草や目線、表現を頼りに本人本位になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅に居た時の生活習慣等、ご本人様、ご家族様にも伺い、自宅に居た時と近い生活ペースを継続して行ける様、又、相応しいサービス支援の在り方について考慮しながら対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の心身の様子や、出来る事、出来ない事を見ながら、残存能力の現状維持を図って行ける様、努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様に、どのように暮らして行きたいのか？を伺い、意向に添えられる様、又、ご家族様からもご意見を伺いながら、ご本人様にとって相応しい計画になるよう、進めて行ける様、努めている。	ニーズに沿った介護計画を策定するため職員間で検討し、家族や医療の意見も参照する等、現状に合った介護計画を作成している。また病気などで変更が生じた場合は速やかに現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様の様子や、ケアの在り方や、工夫について、毎日話し合いながら、実践し、経過をもとに試行錯誤しながら見なおしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、気づいた事等について、どうしてこのようになったのか？また、事前にニーズになりえそうな事について、話し合い、既存のサービスにとらわれない、新たなサービスケアを考慮しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われているイベント等、感染対策前は参加していたが、現在は状況を見ながらのままとまっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行きつけの病院へ受診をし、ご本人様が話しやすい診察が受けられる様、馴染みの関係性が継続し、安心して診察が受けられる様、配慮している。	職員は協力医療機関から医療的相談やアドバイスを受け、利用者の健康を守っている。また24時間オンコール体制で夜間や緊急時の対応に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の心身の様子や、薬服薬の在り方について、用紙に記入し、月に2回の訪問看護時に相談し、ご指示をいただきながら一人一人に合わせた対応がなされる様、取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直後と、途中経過と最終時にご本人様の様子を伺い、退院後に向けてのリハビリや、日常生活に復帰できるよう、情報交換を行いながら連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合の出来る事と、出来ない事等をご家族様へ説明し、出来る場合は一緒に取り組んで行けるよう、又、出来ない場合は、ご本人様の状況とって相応しい療養が受けられるよう、随時話し合いながら取り組んでいる。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、マニュアルを作成し、黙読し、知識が得られるよう、又、系列でも研修会を行い、実践訓練からの素早い対応がなされる様、勉強会の開催が行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練については、夜間想定で行い、意見を取り入れながら定期的におこなっているも、水害や地震訓練については、マニュアル作成は出来ているが、具体的な訓練には至っていない。	避難訓練について消防の指導で年に2回実施し、地域的な防災も地元住民と合意を得ている。法人としてBCP(事業継続計画)作成、食料の備蓄、暖房器具の整備も取り組み、不意の災害に備えている。	前回課題としていた家族、関係者への避難場所の周知について、運営推進会議の活用で進める事に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、入居者様への話し方について、随時見直し、馴れ馴れしくならぬよう、又、各入居者様にとって、何処迄を尊重とするのか？を考慮しながら対応している。	声掛けや呼び名に注意し、いつも礼節を失わないように心がけ、職員間でもお互いに気にかけており、尊厳を大切にケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から、思っていること等、伺い、出来る限りの要望が叶えられる様、又、自己決定が出来る様、比較した内容の会話で伺いながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	具体的に過ごしたい要望は見られないが、趣味等から、されたそうな事を伺い、自己の思いに添った過ごし方になるよう、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どのような身だしなみがしたいのか？自己で表せなくてもご家族様へ、ご本人様の以前の好みのスタイル等伺い、好みのスタイルがなるよう、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲとりや、キノコ類のほぐし、胡麻すり等、以前ご自宅で行われていた調理作業や、食後の食器洗いや、お膳拭き、お米研ぎ等、自宅で行われていた家事動作と一緒にしている。	食事の準備や後片付けに利用者の誰でもお手伝いで参加できるように努め、みんなで楽しい食事になるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付け量について伺い、ご要望に合わせた盛り付けにしたり、摂取量から、適度にスポーツドリンク等、飲用して頂き、栄養補給がなされる様、配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところ迄、ご自分で行っていただき、磨ききれていない所はお手伝いを行い、口腔内の清潔保持がなされる様、配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンから、何処迄、ご自分で行えるのか？等、様子を伺い、さりげなくお手伝いをし、不快感にならぬよう、配慮しながら取り組んでいる。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、自然な排泄支援になるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な体操や、排泄の良い食事に配慮し、適切な排泄がなされる様、取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、職員の都合にならぬ様、配慮しているが、ならざるおえない時もある。他、入浴は一人で入浴されるのが良い方は順番に配慮し、入浴が楽しみになるよう、配慮している。	毎日いつでも誰でも入浴できる体制を維持しており、週に2回以上を目標に努めている。入浴拒否者には無理強いすることなく、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の休息ベースを見ながら、休んでいただき、休み過ぎても就寝に影響しないよう、日中活動にも配慮し、正常な睡眠がなされる様、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の効能について、温度版に記し、何時でも把握出来る様、又、服薬後の様子から、副作用のあり方や変化について、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様に合わせた創作活動と家事動作について、今迄の経験が生かされ、活気ある気分で過ごしていただける様、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけられなくても、以前、行かれていた場所について、伺い、その場所に行った気分が味わえる様、喫茶店や居酒屋と題してのレクリエーションを行い、楽しんでいただける様、配慮している。	現在も外出や集団行動が困難となっている。個別に日々散歩し、行きかう人と挨拶を交わしながら、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自宅でお財布を自己で管理されていた通り、少額を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話が出来ない方等、配慮し、ご家族様と身近でお話ができる様、又、ライン等でビデオ通話の促しを行い、家族との絆が図れるよう、配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	種から花を育て、毎日の成長を感じていただける様、又、季節感や、華やかな気分になられる様、配慮している。	共用空間は、ゆったりと広く、明るい憩いの場となっており、飾りつけも季節感に富んで、行事の写真等が掲示されている。光、音、温湿度に配慮し、安心感に包まれながら居心地良く過ごせるよう工夫が凝らされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士、着席していただいたり、静かに過ごしたい方は少し、距離感を置いたりしながら各自が穏やかに過ごせられる様、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の好みを伺い、居室の壁に貼ったり、置いたりし、気分満たされる様、努めている。	居室は適正な広さが確保され、動線に注意した配置で馴染みの家具が置かれており、また壁には家族写真も貼られ、自分の部屋としてゆっくり過ごせる工夫となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の出来る事を把握し、安全に行える様、出来ない所は出来る様、考慮しながら安全に行っていただける様、配慮している。		